

2011年8月10日

Jプログラム

群馬大学・社会情報学部

ソーシャル・ネットワーク サービス (**SNS**)

～ソーシャルネット・ワークの発生、種類、
利点と欠点～

氏名：サイダ・ムルタザリエバ

学籍番号：10684001

連絡先：msaida_@hotmail.com

指導教員：井門 亮

1. はじめに

最近ソーシャル・ネットワーキング・サービスは世界のどの国でも人気がある。毎日様々なソーシャルネットワークを利用する私たちの社会とネットワークは、切っても切れない関係である。また、ソーシャルネットワーク上で世界各国の人々と、交流を深めることができる。今日インターネットにアカウントがない人は遅れた人間だと考えられる。私は、日本に留学している今でも、**Facebook** を使って、アゼルバイジャンの友達と、交流している。このように、ネットワークは、とても便利なものであり、人々の生活に深く関わっている。しかし、便利な面だけではなく、悪い面も多く存在している。私たちは、ソーシャルネットワークの良い面も悪い面も、理解しなければならない。では、最近ソーシャル・ネットワーキング・サービスはなぜ増加しているのだろうか。人はなぜソーシャルネットワークにそんなにこだわっているのだろうか。

2. ソーシャル・ネットワーキング・サービスとは

Wikipedia は、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) について「社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスの事である」と述べている。つまり、友人や知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供するサービスである。「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」という通念は 1954 年にマンチェスター大学の社会学者のジェイムズ・チャールズ・バーンズが考えついた。詳細に見れば、ネットワークはいくつかのタイプに分かれることが明らかになる。例えば、これは友達や仕事仲間、同級生などのサイトである。

最初にネットワークは科学的なコンセプトとして西欧で普及した。後に、社会学者の普通の仕事は徐々に流行のコンセプトに転化した。1995 年に最初の **classmates.com** という同級生向けのサイトをレンディ・コンドラトが作り上げた。今日このサイトで登録した人の数は 40 億人にのぼっている。

最近では誰も自由に登録できるサービスも増えている。では、なぜソーシャル・ネットワーキング・サービスは毎日増えているのだろうか。ソーシャル・ネットワーキング・サービスのようなプロジェクトに入る投資金はとても大きいからである。またこの投資金は急速に増加している。それは投資家は投資金を回収するだけではなく、さらに増すこと

に自信があるからである。例を挙げよう。IT Leaders という次世代情報システムを創造するリーダーのための専門サイトによると、フェイスブック (Facebook) はこれまでに総額 23 億 4000 万ドル、ツイッター (Twitter) は同 3 億 6000 万ドルの投資を獲得している。

3. 1. SNS に関しての情報

多数の調査によれば、世界中のインターネットユーザーの半分は様々なソーシャル・ネットワークに没頭しているという。以下の表で SNS を使う理由や、地理的な包囲、SNS の情報には様々なタイプに分類した。

SNS を使う理由	情報のタイプ
人を探すため (出会い系) 情報収集のため 遊ぶため： 1. ビデオ 2. 音楽 3. 写真	オープン情報 制限のある情報
	地理的な範囲
	世界 国

一般的に見れば、SNS の全てはコミュニケーションを目的として使われている。

1. 人を探すため：これは主に同級生と友達を探すためのネット・ワークである (例：classmates.com)。最近出会いを求める目的で SNS を使う人が多い。しかし、こういったサイトの中には年齢制限を設けているサイトもある。
2. 情報収集のため：例えば、事故や天災のため、連絡を取りたいときに、電話が通じない地域では、SNS が安否や情報確認の場として力を発揮している。
3. 遊ぶため：ビデオや音楽、写真向けの SNS が多くあり、同じ趣味を持っている人と交際することができる。(例：deviantart.com — 人が自分で描いた絵をサービスに載せ、コメントしながら、交流する)

情報のタイプによって、SNS は2つの種類に分けられる。

1. オープン情報のソーシャル・ネット・ワークは完全に無料である。例として **Facebook, Twitter** のようなネット・ワークを挙げることができる。
2. 制限のあるソーシャル・ネット・ワークでは、登録して利用することができるが、全ての情報を制限なく利用するためには、必ずプレミアムユーザーとして登録しなければならない。プレミアム登録する場合、料金支払いは毎月クレジットカードで行う。お金を払うと、情報を全て制限なく得ることができる（例：Mixi, Lang-8 - プレミアムユーザーになると、新しい機能を利用できる）。

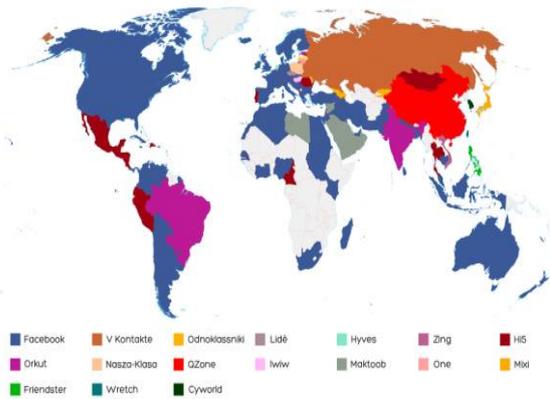
地理的な範囲によって、SNS は異なっている。

1. 世界中で使われているソーシャル・ネット・ワーク（例：Facebook, Twitter）が存在する一方で、地域限定のソーシャル・ネット・ワークもある（例：日本での有名な Mixi やロシアでの有名な Vkontakte といったサイトがある）。

3. 2. SNS の種類。Facebook

インターネットで「SNS」と検索すると、様々なサイトを発見することができる。現在世界で最も有名なソーシャル・ネットワーキングは Facebook, Myspace, Youtube, LinkedIn というサービスである。

June 2009



June 2011



(TechCrunch, 2011年06月13日「Facebookの世界」)

TechCrunch という国際ソーシャル・ネットワーキング・サービスサイトの運営者 Vincenzo Consenza は1年に2回 Google Trend のデータを使って、世界で最も人気の高いソーシャルネットワークの地図を作る。上の地図は2009年と2011年にソーシャル・ネット・ワークの世界に起こった変化をさしている。現在 SNS は Facebook ということがこの図を見ても、明らかである。青い色の国はすべて Facebook が主流である。しかし、ロシア (Vkontakte)、中国 (QQ)、ブラジルとインド (Orkut)、中米、ペルー、モンゴル、(hi5)、韓国 (Cyworld)、日本 (Mixi)、中東 (Maktob)、フィリピン (Friendster) などの国々では、それ以外の SNS が多く使われている。

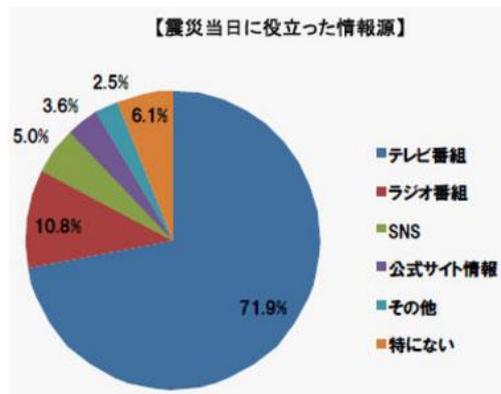
Facebook の情報では、2010年にユーザーの数は6500万人だったが、2011年にはこの数は7、5億人にもなった。毎日登録するユーザーの数は70万人で、毎月2100万人である。次に来る12ヶ月も Facebook はサービスを拡大する予定があるそうである。

4. 1. ソーシャル・ネットワーキング・サービスのメリット

SNS はもう、単なる“将来有望な投資先”ではない。もはや、社会に大きな影響を与えている。

多くの知人と Facebook で友達になって、プロフィールに住所も電話番号も記載していたら、とても便利な使い方ができるだろう。アドレス帳としても使えるし、多くの人に近況を知らせるのも便利である。実際、海外ではそういう使い方が常識になっているので、大きな流行になりつつある。また、ネットで交流することで、それなしでは絶対に連絡できないような地球の裏側にいる人たちと話ができる。さらに、世界中で起きていることについて情報収集が早くなり（国内の新聞やTVで報道されない出来事など）その分野の詳しい人による分析よりも面白い情報が集まるようになるということもある。しかも、これは全部無料できるのである。

さらに、モバイルマーケティング・ジャパンの Web サイトによると、日本で3月に発生した大震災の際にも、電話やメールといった通信手段が使えない中で、SNS を使って家族や知人の安否を確認したという人が多かったという。下の円グラフは震災当日にどのような情報源を使っていたかのかを明らかにしている。



(モバイルマーケティング・ジャパンの Web サイト、2011年6月17日「震災で「SNSが役立った」、まだ5%」)

東日本大震災の際に「Twitter」や「Facebook」などソーシャルメディアが役に立った人はわずか5%であった。

モバイルマーケティング・ジャパンの Web サイトはこの件について、次のように述べている。

調査は 2011 年 4 月 30 日—5 月 2 日にインターネット上で実施し、278 人から回答を得た。年齢は 20—30 歳代が 61%。性別は女性が 69%。震災時には固定電話や携帯電話の通話が困難になり、ソーシャルメディアの有効性に関心が集まったが、当時を振り返って最も役立った情報源が何かを尋ねたところ、72%が「テレビ番組」と答え、次いで 11%が「ラジオ番組」を挙げた。ソーシャルメディアは 5%で 3 位。

3%であったが、私たち留学生にとっては、ソーシャル・ネットワーキング・サービスは貴重な情報源になった。

SNS では、日記、メッセージ送受信、グループ機能（コミュニティ等）などにより、双方向のコミュニケーションを簡単に取ることができる。共通の趣味や趣向を持った様々な年齢層の人たちと交流を持てる。小学生の頃に疎遠になってしまった友達などに再会できる。また、普段から連絡を取り合わなくても友達と親戚の現状を多少は把握できる。

4. 2. ソーシャル・ネットワーキング・サービスのデメリット。個人情報の流出。

だが一方で、ネット・ワークは人々に悪い影響も与えることがある。SNS に掲載する個人情報はなるべく実際に知っている友人以外には見せないほうが賢明かもしれない。最近、ネットで個人情報流出がよく起こっている。あまり熟考しないで、簡単にアカウントに個人的な写真やビデオを公開人が多い。つまり、この人は自分の情報を自発的にインターネットで公開しているのである。

ITmedia インタプライズによると、米消費者情報誌「コンシューマー・レポート」は、米国の成人を対象に SNS の利用動向調査を実施した結果を発表したという。そこでは SNS で自分や家族の情報を公表し過ぎてしまうユーザーが多数いると報告されている。SNS で生年月日を公表しているユーザーは全体の 38%だった。米最大手の Facebook ユーザーに限ると 42%に上った。子供がいるユーザーのうち、45%が子供の写真を投稿したことがあり、自分の住所を公表しているユーザーも 8%いたと述べている。

SNS がユーザー保護のために提供しているプライバシーコントロール機能を使ったことがないという人も多く、Facebook ユーザーの 23%は、サイトにプライバシーコントロール機能があることが知らない、または使っていないと答えたということである。

自分のや写真を公開する機能や、メッセージを送る機能、新しくできた「友人」を登録するアドレス帳、友人に別の友人を紹介する機能、会員や友人のみに公開範囲を制限できる日記帳、趣味や地域などテーマを決めて掲示板などで交流できるコミュニティ機能、予定や友人の誕生日などを書き込めるカレンダーなどの機能がソーシャル・ネットワーキング・サービスにはある。それはもちろん大変便利だけれど、自分の個人情報を書き込んでしまうと、多くの人がある情報を知ってしまうことになるため、大変危険でもある。また、個人の情報を、他人が勝手に掲示板に書いてしまう、という嫌がらせなども多い。

そのため、個人情報を簡単に書き込まないべきである。特に、掲示板には注意しなければならない。また、インターネットは、情報量がとても多いので、どれが本当の情報で、どれが嘘の情報なのかを、自分でしっかり判断していかなければならない。全ての情報を本当だと思い込むと、間違ったことを覚えてしまう。後は、個人情報の流出を防ぐために、自分のパソコンには、パスワードなどを設定して、管理したほうが良い。パスワードを設定していないと、他人が勝手に自分のパソコンの情報を見ってしまう可能性があるからである。このような単純な方法に気がついたら、せめて少しだけでも危険を避けられるかもしれない。

5. 結び

現在において、ソーシャル・ネットワーキングは人々の生活のために導入されたものである。ソーシャル・ネットワーキングを使わない、生活を想像できない人もいるかもしれない。交際したり、遊んだり、働いたりする人はインターネットを自由に利用できる。誰でもここで好きなことを見つけられる。それは、インターネットには制限がないからである。

では、これから私たちはソーシャル・ネット・ワークをどのように使っていけばよいのか。注意しなければならないことは、いくつがある。一つ目に、個人情報を簡単に書き込まないことである。特に、掲示板には注意しなければならない。また、インターネットは、情報量がとても多いので、どれが本当の情報で、どれが嘘の情報なのかを、自分でしっかり判断していかなければならない。すべての情報を本当だと思い込むと、間違ったことを覚えてしまう。あとは、個人情報の流出を防ぐために、自分のパソコンには、パスワードなどを設定して、管理したほうが良い。パスワードを設定していないと、他人が勝手

に自分のパソコンの情報を見ってしまう可能性があるからである。このような単純な方法に気がついたら、せめて少しだけでも危険を避けられるかもしれない。悪い点があるにもかかわらず、毎日インターネットを使っている人は増加している。しかし、悪い点について考えたら、これは社会のせいではないかと思う。ソーシャル・ネットワーキングをとがめる前に、人が自ら変わらなければいけないのではないだろうか。ネットの世界も現実の世界と同じで、いい人も悪い人も混在しているので、そのことを思いながら利用すべきである。インターネットは今後も発達し続けるであろう。そのため、ソーシャル・ネットワークもさらに有用で活用されていくだろう。

<参考文献>

1. <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BD%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%BB%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%93%E3%82%B9%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7>
2. <http://wol.nikkeibp.co.jp/article/trend/20110617/111252/>
3. <http://it.impressbm.co.jp/e/2011/05/11/3705>
4. <http://www.facebook.com/press/info.php?statistics>
5. <http://jp.techcrunch.com/archives/20090607a-map-of-social-network-dominance/>
<http://techcrunch.com/2011/06/13/its-a-facebook-world-other-social-networks-just-live-in-it/>
6. <http://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/1005/06/news018.html>